

# 令和4年度 第1回 鎌ヶ谷市地方創生総合戦略推進会議 会議録

○日時 令和4年10月13日（木）午後2時から

○場所 鎌ヶ谷市本庁舎6階 第1・2委員会室

○出席者

(1) 推進会議委員 ※敬称略

会 長：菅野 勝利（鎌ヶ谷市自治会連合協議会長）

副会長：徳田 訓康（鎌ヶ谷市社会福祉協議会長）

委 員：竹内 久子（千葉県婦人防火クラブ連絡協議会長）

委 員：井手 勝則（鎌ヶ谷市商工会長）

委 員：川上 泰志（とうかつ中央農業協同組合鎌ヶ谷支店長）

委 員：河南 康広（千葉県東葛飾地域振興事務所長）

委 員：根本 恵美子（鎌ヶ谷市教育委員会委員）

(2) 鎌ヶ谷市各部次長

狩谷総務企画部長、井上総務企画部次長、中川市民生活部次長

星野健康福祉部参事（事）次長、崎田都市建設部次長

市村生涯学習部参事（事）次長、矢ノ目消防本部参事（事）次長

(3) 事務局（総務企画部企画財政課企画政策室）

小笠原総務企画部参事（事）企画財政課長、古田主査、波木井主査補

○記録 波木井

○傍聴者 あり

## 1 開会

## 2 自己紹介

## 3 議題

### (1) 会議録署名人の選出について

会議録署名人は、委員名簿順として、井手委員、川上委員に決定した。

### (2) 会議要旨説明

本推進会議設置要綱に関して、3点ほど報告をさせていただきます。

本推進会議設置要綱の第5条第1項、推進会議に、会長及び副会長を置くとありまして、第2項会長及び副会長は、委員の互選により決定するとあります。

今年度新しく本推進会議の委員に3名の方が就任されましたので、昨年度の会長及び副会長の互選状況につきまして概況を報告させていただきたいと思っております。現会長及び副会長は昨年度即ち令和3年度の本推進会議におきまして委員の皆様から会長及び副会長へのご推薦をいただき、ご承認を賜ったものであります。

本推進会議設置要綱第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となるとありますので不慣れではありますが議長の職を務めさせていただきたく存じます。

それからもう一点でございますが、本推進会議設置要綱第6条第2項の規定により、会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができないとあります。本会議の委員の定足数は7人に対し委員7人全員の出席をいただいております。本会議の出席者は過半数に達しておりますので、本会議は成立いたしましたことをご報告いたします。

会議、要旨説明に入らせていただきたいと思います。

本推進会議は、総合戦略の効果及び検証等を行うため、幅広い分野の関係者から意見を聴くことを目的としております。

そして、この総合戦略の主な目的は、出生率の向上、人口の流入増、定住促進としており、少子高齢化に歯止めをかけ、人口減少や地域経済の縮小を克服しようとするものでございます。

鎌ヶ谷市の場合は、配布された資料にもございましたが、平成28年度から、転入者が転出者を上回っており、令和元年度に11万人を達成したところです。

ただ、少子高齢化は、日本全体の課題となりますが、本市の出生率も低下する傾向にあり、人口減少、少子高齢化は避けられない状況と考えております。

また、本会議では、令和3年度の事業を検証いたしますが、資料を拝見しますと、新型コロナウイルス感染症の影響が多岐にわたっております。

本日の会議の地方創生は、広い範囲となりますが、限られた時間の中で多くの意見を頂戴いただきたく、議事進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### **(3)「鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）」に係る効果・検証について**

(事務局：小笠原参事)

それでは、事前に郵送しました資料2の「令和3年度事業に係る効果・検証」をご用意ください。

委員の皆様には、事前に配布し、ご質問等をいただいておりますので、詳細な説明は省略させていただきますが、はじめに、本市の総合基本計画の全体構成について説明させていただきます。

本日配布しました、「鎌ヶ谷市総合基本計画」をお願いいたします。

表紙と目次をめくっていただき、3枚目の「総合基本計画について」をご覧ください。

総合基本計画については2番に記載の通り、基本構想、基本計画、実施計画の3層構造で構成しております。

計画期間につきましては、基本構想が令和3年度から12年間、基本計画が前期と後期に分かれておりまして、6年間、実施計画についても6年間でございますが、3年ごとに見直しを行います。

この、基本計画の部分に、本日ご審議いただく、まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含しているところでございます。

基本構想でございますが、こちらは市民、事業者、行政などが一体となってまちづくりを進める基本的な指針となります。

まちづくりの基本理念として、みんなで作るふるさと鎌ケ谷を設定するとともに、五つの基本目標を設定しております。

その上で、基本計画では、重点プロジェクトの設定、これから審議していただく部分となりますが、政策や、政策に紐づいた 33 の施策がございますが、それぞれの施策ごとに目標となる指標や、指針となる手段などを定めております。

最後に、実施計画につきましては、この実施計画に基づいて、毎年度、当初予算編成等を進めておりますが、そういった基本的な方針となるところでございます。

次に、委員の皆様から事前にご質問等をいただいております、市の考え方を整理しましたので、ご説明させていただきます。

#### No.1

戦略という言葉使いではなく、総合的な計画という文言の方がいいのではないかと  
いうご意見でございますが、委員おっしゃる通り、戦うという意図はございません。

まち・ひと・しごと創生法の規定に基づいて全国的にこの名称を使用しております  
が、鎌ケ谷の場合は総合戦略を基本計画の中に包含しており、戦略という言葉は表紙  
等には入れていません。

#### No.2.3

委員おっしゃる通り、外部有識者とは、本推進会議となります。

#### No.4

避難所運営委員会の組織数等に関するご質問でございますが、12 の組織が設立さ  
れており、全体に対しまして、60%となっており、令和 8 年度末の目標の達成を目指  
しているところでございます。

#### No.5

誤字です。ありがとうございます、申し訳ございませんでした。

#### No.6

合計特殊出生率でございますが、例年 11 月ごろを目途に公表されておりますが、  
鎌ケ谷市は 682 人の出生数でございました。

前年は 703 人なので、おそらく合計特殊出生率は若干減るのかと思います。

なお、15 年前が 924 人でございましたので、大幅に減少しており、少子化が進ん  
でいるという状況です。

#### No.7

父親の育児休暇制度などの休暇が取りにくい状況なので、取りやすい環境にするべ  
きじゃないかというご意見でございます。

おっしゃる通り男女ともに仕事と育児を両立できる社会の実現を目指しており、行政ではパパサロン等を実施しておりますが、市内企業等に関しまして、父親の育児休業取得促進を図る普及啓発を進めて参りたいと考えております。

#### No.8

ファミリーサポートセンターは、これまで利用者の全員に満足度を聞くような調査はしておりませんが、利用会員の方からは、子供を預けられて感謝しているというご意見があるそうです。また再利用につきましてもほとんどの方が、2度以上利用されている状況です。

#### No.9

交通事故の発生件数の内訳でございますが、個々の具体的な内容は把握できない状況でございますが、県の統計によりますと、1年生から3年生までは歩行中の死傷者数が多く、4年生から6年生の高学年になるにつれて自転車の乗車中の死傷者数が多くなります。

うち約半数が登下校中だという状況となります。

#### No.10

自転車の利用者の安全についてです。

鎌ヶ谷市のハード面は、道路は狭い状況でございますので、自転車の交通安全教室の開催、義務化となりましたが自動車保険加入の契約促進など、ソフト面を重点的に進めているところでございます。

また、ハード面につきましては、3年前に自転車ネットワーク計画を策定しておりますので、計画に基づいて事業を推進して参りたいと考えております。

#### No.11

商工業に関するご質問となります。

商工業や商店会連合会、各商店会等がございますので、そういった団体名を具体的に明示したいと考えております。

#### No.12

かまたんブランドにつきましては、かまたんを有効活用しながら、知名度アップや地域活性化につなげて参りたいと考えております。

ふるさと産品につきましては、ふるさと産品を通じまして、地域の活性化や商工業に多大なご尽力をいただいております。

今後、鎌ヶ谷市としましては、パンフレットの配布、ふるさと納税の返礼品としてのふるさと産品の活用、PRを図って参りたいと考えております。

資料2・3についての概要説明は以上となりますが、本日の会議では、重点プロジェクトに紐づいた重点施策に関する、令和3年度事業の実績を、資料2にまとめております。

主に、この重点施策を対象に、委員の皆様から、今後のまちづくりのために取り組んでいただきたいご提案やご意見、ご質問等をちょうだいしたいと存じます。

本日の会議では各部局の次長が出席しておりますが、ご提案等につきましては持ち帰らせていただいて、ただいま令和5年度当初予算等の編成をしておりますので、今後の推進策などの参考にさせていただきたいと思っております。

(菅野会長)

ただいま事務局から、資料2・3に基づき、説明がありました。

数値目標に関する令和3年度実績が、4ページから6ページにまとめられており、具体的事業の進捗状況や令和4年度の取り組みについては、7ページ以降にまとめられております。

これら資料につきまして、委員の皆様からご不明な点などがあつた場合は、事前に市へ提出することとなっております。

委員の皆様からいただいた意見と、それに対する市の回答について、本日、追加資料1としてお手元に配布しております。

ただいまの市からの説明を聞いて、事前に質問をされた、根本委員から、何かご意見、ご質問等はございますか。

(根本委員)

私には中学生と高校生の2人のこどもがおりますので、重点施策の「子育て環境の充実」に興味がありました。

中学生の娘は自転車で通学しており、歩行者の安全は今とても声が上がっていますが、自転車利用者の安全について、子供だけではなくご高齢の方も利用されますので、まちづくりの施策で取り上げていただいて、整理されていくと良いと思っております。

環境問題なども考えると、車ではなく自転車を利用しようという意見が増えていくところもあると思っております。

(事務局：小笠原参事)

八街市で、自転車ではなかったですが、痛ましい事故がございましたので、令和5年度の当初予算では、ガードレールの設置など、そういった面で予算の重点化を図っているところでございます。

自転車の交通安全の部分に関しましても、都内ですと道路脇に自転車専用道路を整備して、自転車が通ることを車の方にもわかるようなことも計画しておりますので、根本委員おっしゃるようなことも必要かと考えております。

(井手委員)

総合「戦略」という文言については、ウクライナでこれだけ人が死んで困っている中ですので、「戦略」という言葉ではなくて「計画」で良いのではないかと、そういうデリカシーや気遣いが必要だと思ひまして、意見として書かせていただきました。

ふるさと産品協会については、商工会長ですので、市内業者をどのような形で頑張ってもらおうか、かまたんブランドを関係させて沖縄や北海道で産業を興して自分たちの地場の物を売るとか、いろいろな形で地元の産業や、仕事を増やしていくことが必要だと考えていますので、梨や鎌スタをいかに活用していくかが、我々の商工会も含めやるべきことかと思ひます。

59 ページの写真、『かまたんす』がありますが、かまたんブランドを使って商工振興課さんが補助金で募って作ったのですが、鎌ヶ谷の梨が使われてなくて、洋梨が使われています。これは農業振興課さん、梨業組合さんも知らなくて、JA 東葛さんも知らなかった。

梨業組合さんは一生懸命に梨を作っています。我々の地域の財産としてかまたんブランドを商品に使っています。商工会に相談していただければベストな方法を提案させていただきますので、必死になってやっているような状況ですので、ぜひご理解のほどお願いします。

(中川市民生活部次長)

井手委員のおっしゃるように、商工業や農業の振興というのは、商工会とも、農業の方々とも、連携してやっていくべきものと認識しておりますので、連携を意識したような形でやっていけるように、認識を深めていきたいなというふうに、思っております。

(事務局：小笠原参事)

総合戦略のところは、戦うといった意図はないのですが、鎌ヶ谷市の場合は、総合基本計画をメインに進めていくということでご理解いただきたいと思ひます。

商工業の部分についても、井手委員おっしゃるように、鎌ヶ谷市の場合は梨だったりとか、鎌スタとかを PR しながら、地域活性化をしていきたいと考えておりますし、商工会等々ではかまたんスナックだったりとか梨サイダーとか、地元の梨を使っていたきながらやっておりますので、そういった面から、市のほうもバックアップしながら進めていきたいと考えております。

(徳田副会長)

高齢になりますと食事の摂取量が減り、栄養不足により筋力や金属量が減少するというような悪循環になります。

要介護にならないため、かまたんブランドの中に栄養価の高いことをアピールできるような、商品の開発、研究はできないものなのではないでしょうか。

(井手委員)

かまたんブランドで栄養のあるものをアピールできるものについては、農商工連携の産業を興す中で、もう一度ゼロに戻る形になります。

栄養価が高いということですと、梨の肉まんを作ったこともありますし、焼き肉のタレとか、物理的に可能だとしても、そこに利益が出るのかは別となりますので、いずれにせよ時間はかかると思います。

(事務局：小笠原参事)

いきいき健康プランの中で、食育の面は大事ということ、健康福祉部門で進めております。

副会長おっしゃるように高齢化が進んでおりますので、そういった栄養価の高いものは直接市では作ることはできませんが、商工会や事業者の方との協力について検討させていただきたいと思います。

(竹内委員)

10 ページ、市役所敷地内に新たに防災備蓄倉庫を整備し、令和 3 年度に新たに購入した、避難所用テントや間仕切りなど、感染症対策のために、備蓄品を入庫したと書いてございますが、全国的にも災害が多い中で、皆さん「万が一火災が発生したら」ということをすごく懸念しております。

国の方も、防災品の間仕切りを色々な施設に配布しておりますが、鎌ヶ谷市の間仕切りなどは防災品ではなく、普通のダンボールなのではないでしょうか。いずれは、万が一の火災が発生した場合に延焼しないような体制づくりに持って行っていただけたらありがたいと思います。

(事務局：小笠原参事)

こちらの新たな防災倉庫は、シルバー人材センターの隣で、国のコロナの交付金を使わせていただいて、コロナ対策の部分が避難所の運営でかなり課題となっておりましたので、そういった面から新たな防災倉庫、備蓄品を整備しましたが、(※) 間仕切りについては、おそらく防災品でない段ボールと思いますが、安全対策課に情報を提供しまして、予算に限りはございますが、国の補助金とかそういったものを活用させていただきながら、整備について検討させていただきたいと思います。

(※) 安全対策課に確認したところ、ここ最近に購入を開始したため、防災対応を購入しているとのこと。

(河南委員)

効果検証を拝見させていただきました。高度経済成長期に整備した道路ですとか、公園とか学校などが一斉に更新や改修を迎えますが、一方で、社会保障費の増加も見

込まれますので、財政支出の増大に対応しつつ、取り組んでいかなければならないと思います。

県も同じ状況でして、財政負担の軽減、平準化を図りながらも、公共施設として求められる安全安心を確保しつつ、行政サービス水準も維持していかなければなりませんので、情報交換しながら、やっていけたらと考えております。

もう1点、いろいろ効果測定をしておりますが、県と市それぞれ相乗効果を発揮できるような形で、市と連携しながらやっていけたらというふうに思います。

(事務局：小笠原参事)

鎌ヶ谷市基本総合基本計画を作るときに、今現在の建物の7割ぐらいが小中学校の施設となり、半分ぐらいが40年以上の施設となりますので、老朽化が著しい状況でございました。

小中学校のエアコンや耐震化、トイレも汚いイメージがございましたので、今年度中には完全な洋式化が終わらせるような形で、優先的にやっておりますが、建物だけでなく、委員のおっしゃるように、道路や河川など色々なものが老朽化が進んでおります。予算の中でうまく優先順位を図りながらやっていきたいと思っております。

県との連携につきましては、知事の視察でもご要望いたしました。そういった連携を図りながら、まちづくりにもご協力いただきながらやっていきたいと考えております。

(川上委員)

道路環境の充実というところがありますが、私も鎌ヶ谷の佐津間に住んでいますが、土日になると渋滞が多いところで、土地とかいろいろな問題もあるのでしょうか。

(崎田都市建設部次長)

渋滞に関しましては、部分的になりますけれども、時間帯や、どのような車両が通っているのか、調査の上で対応していきたいと思っております。

(事務局：小笠原参事)

補足となりますが、平成14年から始めました新京成の連続立体交差事業は、2年前に完全に高架化しまして、一定程度の渋滞緩和には繋がりましたが、やはり北千葉道路が開通しない限り完全な渋滞は解消できないと考えております。

今、進めているのは、鎌ヶ谷総合病院の脇に都市計画道路をつくり、まずは北千葉道路のバイパスや、事業化はまだ鎌ヶ谷市内はされておりませんが、北千葉道路の整備促進のため、市長をはじめ全庁的に進めているところでございまして、時間がかかっておりますが、最終的には大きな効果が出るのではないかなとは考えております。

(菅野会長)

避難所運営委員会は目標 21 に対し、現在の避難所運営委員会は 12 です。

また、想定避難者数 1 万 1,234 人に対し、現在の収容可能人数が約 6,700 人で約 60%となっております。

想定避難者数は 1 万 1,234 人というのは、鎌ヶ谷市の人口 11 万人の 10%ですし、そのうち収容可能人数が約 6,700 人ということですので、鎌ヶ谷市内に避難所があるのかないのかよくわからないと感じます。

また、避難所運営委員会を令和 8 年度末までに 21 を目指すと書いてあるのですが、これはゆっくり過ぎないかと思います。先ほど、竹内委員から、避難所の間仕切りの話がありましたが、避難所運営委員会ができてないと、間仕切りをセッティングする人もいないので、もう少しスピードを上げていただく必要があると思います。

それからもう 1 点、追加資料の No.9 で、死傷者数 9 件と書いてありますが、死亡者はいないという解釈でよろしいですか。

(事務局：小笠原参事)

鎌ヶ谷市の場合は、死亡者はいません。

ただ、県内ですと、いらっしゃると思います。

(根本委員)

将来的な鎌ヶ谷市っていうまちをイメージしながら、ワクワクしながらまちを作っていけたら、子供たちもワクワクと成長できると思います。

私の自宅の近くにも公園があり、子供たちが伸び伸びと遊べる環境を作っていけたらいいなということを思っております。高齢者の方と一緒に地域に住んでおりますが、安全を考えて使用禁止というネガティブな言葉を使うのではなく、大人が都度声をかけることで、子供たちが公園を使う中で色々な世代が触れ合いながら、子供たちが成長していける場になるといいなと思っております。

また、子育てをしているお母様方が悩みを色々相談できる機関は今もありますが、子育ての終わった方々のご意見やアドバイス、支えというのがすごく大きな力にもなってくると思いますので、こういった活動がもっと充実して、盛り上がっていくといいと思います。

あと、空き家の活用がありましたが、若い人たちや、外から来てくださる方に対する補助金があると新しい風が吹き込まれていいなと、未来に対して希望を持っていたらいいなと、思っています。

(事務局：小笠原参事)

おっしゃる通りで、芝田市長も子育てにしやすいまちづくりを緊急的な対策の一つとして掲げております。

いただいた意見は、健康福祉部だけではなくて、教育面とか、道路面とか、様々な

ところで連携しながらやらないといけない大きなことであり、おっしゃる通り、わくわくしながら伸び伸びと、子供たちが遊べる、学べる、また、鎌ヶ谷市の場合は見守りは皆さん自治会など、みんなで見守っていこうっていうのが構築されております。そういった面からも、市民全体でバックアップができるのかなとは思っております。今日いただいた意見は、関係する所属所にお知らせしたいと思っております。

(竹内委員)

治水対策について、台風14号、15号の影響で、線状降水帯が発生し、全国的にもそうですが、鎌ヶ谷市も警報3が何回か出ました。

菅野会長のところも、床下、床上浸水で大変お困りになっていて、現在、市が水害対策工事を実施しておりますが、台風の影響、豪雨によって、鎌ヶ谷市では警報が何度も出ます。

ハザードマップにも、警報3が出る地域が出ておりますけども、その地域の人達は豪雨になったら戦々恐々、皆さんご心配をされてると思います。

そういう地域の人たちの治水の工事はどのような感じになっていきますか。

(事務局：小笠原参事)

市長の政策の中に災害に強い安全安心なまちづくりを掲げております。治水対策は市民の命に関わりますので、重点的に予算を配分しながら進めております。

具体的に申し上げますと、馬込沢地域については、二和川が課題となっておりますので、令和8年度にバイパスの工事を終わらせて大柏川第二調節池と連動させたいと考えており、その後に拡幅工事に入ります。

また、串崎新田の屋比久クリニックのところについては、かなり水が出ますので、貯留池の土地の購入を進めておりまして、2、3年後には大きな貯留地が完成する予定です。

また、東部学習センターの脇に水が溜まる部分については配水管を入れるなど、全体的に力を入れながら進めているところでございます。

(竹内委員)

菅野会長のご質問の中で、避難所運営委員会について、その組織を作らなくてはいけないということ、それは本当に大事なことです。

災害が起きたら備蓄はもちろんですが、避難をするのではなく自分の家で心構えをしておく方が大事だということを、専門家の先生がおっしゃっていました。

(井手委員)

子供たちのサポートはしていかないとはいけませんので、商工会では職業体験を受けていますが、通学路など、安全な道路整備は民間ではできません。

具体的に、誰がいつまでに何をやるのか、例えば3年計画で、確実に実施して欲し

いと思います。

(事務局：小笠原参事)

防災対策に関しましては、待ったなしの状況ですので、担当部門にお伝えしたいと思います。

井手委員からの通学路に関しましては、通学路整備は行政しかできませんので、予算の重点化を図っているところですが、道路事情については市民アンケートなどでは、うまくいってないという意見が出ておりますので、今後進めていかないといけない一つだなどは考えておりますので、都市建設部にお伝えします。

#### (4) その他

(菅野会長)

議題の3番はここまでといたしまして、議題の4番、その他に入りたいと思います。

委員の皆様から、地方創生や地域活性化などに関連したご意見などがございますでしょうか。

(井手委員)

これまで、沖縄の名護や北海道の札幌とコラボを何度もやっているが、北広島市のボールパークに関してはどうか。

北広島の地価の上昇は全国トップとなっており、商売人としては乗り遅れないため、この機会を活かして受益者になれるよう、民間では密に連絡を取り合っている。

(市村生涯学習部参事)

文化・スポーツ課では、北広島市のボールパークのご担当の方と連絡をとり合える状況になっております。

今お話がありましたような、地域を活性化させるという意味で、商工振興課とも情報共有をさせていただきながら、いろんな手だてを考えていきたいと思っております。

(井手委員)

今の話ですが、商工会には情報がいっさい入ってこないため、やっているのかやっていないのか、わからない。

組織が縦割りで情報共有できていないと思う、市役所の皆様が横の連携をもっとなさったらよろしいと思います。

(狩谷総務企画部長)

横の連携について、非常にいたく感じているところです。まだまだ情報共有できてないと再確認できました。

これから、できるだけそういう言葉をいただかないように、努力していきたいと思

いますので、今後ともよろしく願いいたします。

(菅野会長)

それでは、これもちまして、議題は終わらせていただきたいと思います。

(狩谷総務企画部長)

本日は、お忙しいところ、多くのご意見・ご提案をいただき、ありがとうございます。委員の皆さまからいただきましたご意見につきましては、今後の市の取組みの中で、検討させていただき、これからの地方創生、地域活性化などの推進に活かしてまいりたいと思います。特に、現在、令和5年度予算要求に向けて、各部局が具体的な業務内容の精査を進めておりますので、その編成の中でも活用してまいります。

## 4 閉会

(菅野会長)

それでは、これをもって議事を終了し、本日の会議を終了いたします。

以上で会議は終了した。